

平成26年5月23日（金）

高大連携 2年地域福祉系列

関西看護医療大学

関西総合リハビリテーション専門学校訪問

日頃、福祉の基礎的な知識や技術を学ぶ生徒たちが自分の進路を考えるヒントとして、近隣の大学や専門学校を訪問した。午前中は、関西看護医療大学の実習・講義を見学し、学食体験を行った。午後は、関西総合リハビリテーション専門学校の理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の3学科を見学し、作業療法士と言語聴覚士の仕事を体験実習した。



陰部洗浄とカテーテルの使用実習を見学した。
（関西看護医療大学）



シーツを使用した体位の変換実習を見学した。
安全に体位を移動するためには、介助にあたる人の立ち位置も重要であると指導されていた。
（関西看護医療大学）

指先を使って細かいものを移動させる上肢機能検査やブロックを使った知能検査、フロスティックの視知覚発達の検査など作業療法士の仕事の1つである検査を体験した。（関西総合リハビリテーション専門学校）



（生徒の感想）

（大学）初めて知ったことや見たものばかりでよい経験になった。内容が濃く、自らお金を払って行きたい大学に行くということの意味をわかった気がする。自分の将来のために身につけておかないといけない知識や技術なので、本気で学んでいるということが伝わってきた。

（専門学校）作業療法の学科で体験した、視知覚や動作に関する検査では、私たちなら簡単にできることでも障がいがあることで難しくなってしまうことを学んだ。

リハビリについてもっと知りたいと思った。



理学療法学科にて、ボディメカニクスを熟知しながらの下肢機能訓練実習を見学した。
（関西総合リハビリテーション専門学校）